

市地域文化財「ゆかりの家・いなげ（旧武見家住宅）」の修繕について（報告）

令和 7 年度に実施した、市地域文化財「ゆかりの家・いなげ（旧武見家住宅）」の修繕について、下記のとおりご報告します。

1 文化財概要

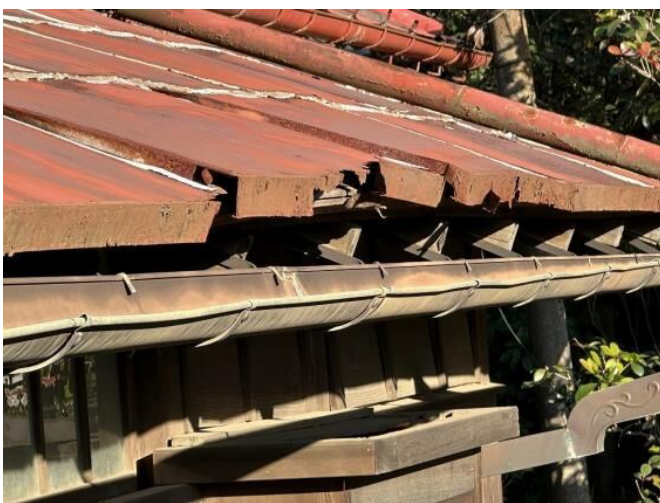
- | | |
|----------|--|
| （１）所 在 地 | 千葉市稲毛区稲毛 1－16－12 |
| （２）登録年月日 | 平成 28 年 1 月 20 日 |
| （３）所 有 者 | 千葉市 |
| （４）概 要 | 明治中期以降保養地として賑わった稲毛に建てられた別荘の一つで、昭和 12（1937）年には、中国清朝の最後の皇帝愛新覚羅溥儀の実弟・溥傑と妻・浩が新婚生活を送った。保養地としての稲毛の歴史を今に伝える貴重な和風別荘建築。 |



正面玄関側



中庭側



縁側屋根破損状況



台所庇破損状況

2 修理概要

(1) 実 施 日 令和7年8月5日(火)～令和8年2月27日(金)

(2) 修理施工者 岩瀬建築有限会社

(3) 修 理 内 容

ア 屋根葺き替え

劣化している屋根金属板葺きの葺き替えを行った。

イ 屋根下地補修

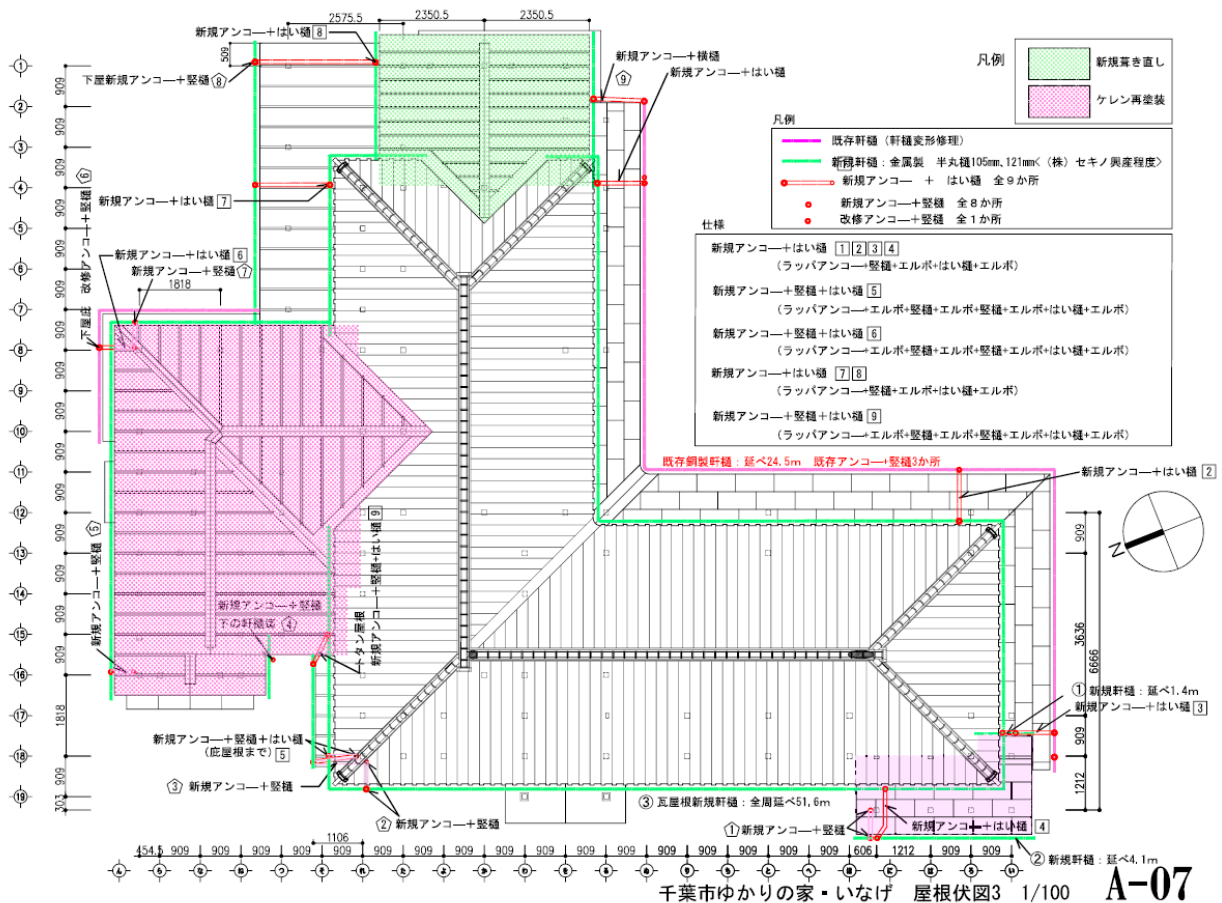
上記屋根葺き替えに伴う屋根下地の補修を行った。

ウ 屋根塗装

表面塗装のみ劣化している箇所の屋根金属板葺きの塗装を行った。

エ 雨樋の更新

劣化している雨樋について更新した。



(4) 修理後所見

1 縁側屋根の状況

縁側屋根の軒先は、化粧垂木の上に広小舞、淀を重ね、その上に唐草下地板が取り付けいていた。化粧裏板で化粧垂木直上に成1寸4分（52mm）の野垂木が置かれていた。さらに幅1寸6分（48mm）、厚み3分（9mm）の野地板が1寸8分（54mm）の空きを設けて小間返し張りで取付いていた。野地板上は、スギ、長さ8寸5分（255mm）、葺き足3寸（90mm）洋釘留めで土居葺き（トントン葺き）となり板金屋根の防水処理がなされていた。



野地板の状況



トントン葺きの状況

板金屋根は亜鉛引き鉄板の一文字平葺で葺かれていた。唐草は、見付1寸2分（36mm）で見付より釘留めとされていた。平葺きは3尺（909mm）×1尺5寸（455mm）原板を加工して使用していた。幅1寸（30mm）長さ2寸（60mm）の吊子を1尺5寸（455mm）ピッチで野垂木上に取付け、利き幅2尺8寸5分（864mm）、葺き足1尺3寸5分（409mm）、ハゼ5分（15mm）で軒先から葺き上げていた。隅はハゼ留めとしていた。

既存屋根を解体したところ、当初と思われる金属板葺き材が上部壁際に残存していることが判明した。過去の葺き替えの際、壁際の1枚を取り替えるには、一旦下見板を取り外し、さらに内部の下地板や漆喰壁を解体する必要があったため、この部分が残存していたと思われる。



唐草の状況



当初葺き材の残存状況

2 洋間屋根の状況

洋間屋根は、軒先垂木上に広小舞を取付け、野地板（化粧裏板）が張られていた。野地板上にはアスファルトフェルトが張られ、幅1寸5分（45mm）、成（高さ）1寸5分（45mm）の瓦棒芯木が約1尺（303mm）ピッチで取付いていた。棟は、3寸5分（105mm）×6部（18mm）の杉板を瓦棒の上に乘せていた。

瓦屋根との谷際には、過去の修理の際に撤去されなかったドブ板、トントン葺きと古い瓦棒が残され、その上に現状の金属板が葺いてあった。

ドブ板は、瓦棒に1寸（30mm）ずつ立上げ釘留めとし、瓦棒キャップを被せ、同様に側面から釘留めとしていた。



既存ルーフィングの状況



垂木・広小舞の状況

3 木工事

木部の修理は、広小舞、瓦棒芯木については解体材と同材同寸で復旧した。縁側屋根の野地板は、解体前は小幅板が隙間を空け張ってあったが、今回は全面張りに変更した。また下地の防水についても、トントン葺きから改質アスファルトルーフィングに変更した。ただし、上部の壁際についてはトントン葺きの状態が良好であったため、旧来の仕様を将来に残すよう存置し、その上にルーフィングを敷設した。

縁側屋根増築部の屋根下地は、栈木や板を幾重に重ねて作られていたが、屋根の垂下を極力抑えるため、野垂木に変更し高さを調整した。



野地板施工状況



アスファルトルーフィング敷設状況

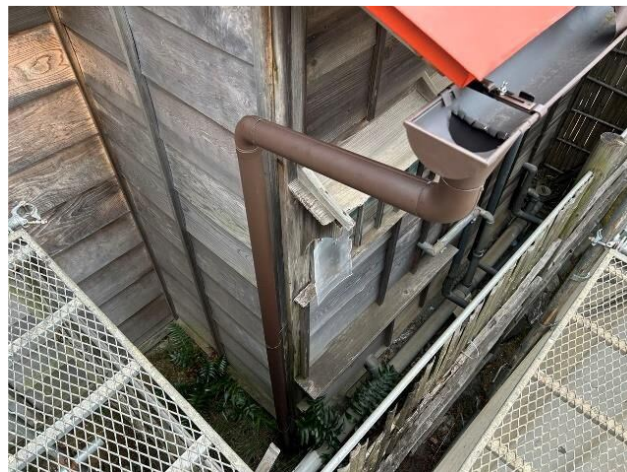
4 金属工事

屋根材は現状の亜鉛メッキ鋼板からステンレス鋼板に変更した。その加工・取付について、旧来の工法で雨仕舞が悪かった軒先の納まりを改変した。また、ハゼ折となっていた縁側屋根の隅棟の峰の部分を、今回は折り曲げとし雨仕舞を改良した。さらに縁側屋根増築部の底桁（丸桁）木口は、洋間庇屋根の雨水によって腐朽しかけていた。そのため水が木口に流れないように立上げ部材を付加し保護した。

樋は、亜鉛メッキ鋼板および塩ビ製であったが今回はガルバリウム鋼板の樋に変更した。銅製の樋については歪み直し等を行い再用した。



縁側屋根 隅棟峰の施工状況



雨樋の取付状況

5 塗装工事

亜鉛メッキ鋼板葺きの屋根のうち、葺き替えを実施しない屋根についてはポリウレタン系の屋根専用塗料で塗替えを実施した。

既存塗装はスクレーパー、マジックロン等でケレンを行ない、活膜以外は除去し、清掃のうえ下塗り材を塗布した。その後2回塗にて仕上げた。



屋根塗装下塗りの施工状況



屋根塗装上塗りの施工状況